

太平電機カーボンニュートラル達成 ～体制確立宣言 18 年間のあゆみ

2024.5.10

太平電機株式会社
ECOひいきプロジェクト
代表取締役社長
樋口公平



エコアクション21
認証・登録番号0000139



神奈川県の間伐を支援する紙を使用しています



キイノクス



地方創生SDGs
官民連携
プラットフォーム

太平電機(株) ECOひいきプロジェクト



私たちは持続可能な開発目標(SDGs)を支援しています。



太平電機の事業紹介

電子部品販売事業

- ・コネクタや電線、光ファイバー加工品
- ・センサー、ソーラー、リチウムイオン電池販売

本社 横浜市
営業所:上尾市

社員数 21名

業態 商社

創立 48年目



ECOひいきプロジェクト

- ・野鳥や自然を守るための商品の開発販売
- ・企業の生物多様性支援(SDGs14,15支援)



地域の自然を守るタオル



企業敷地の
自然認定支援



動物保護セン
サーシステム

太平電機の二酸化炭素排出量 2024.3月ゼロ達成(scope1と2)

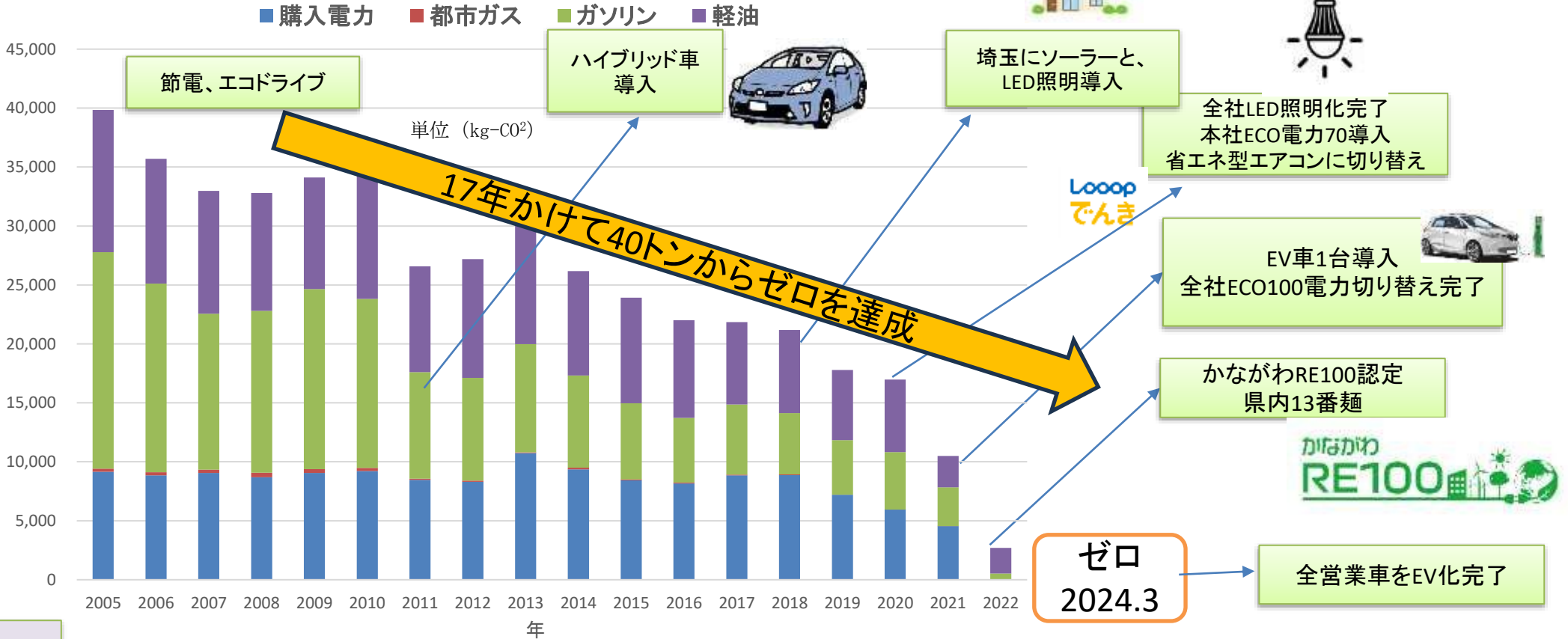


⇒環境省エコアクション21の認証取得、
毎年審査を受けています。



二酸化炭素排出量推移

単位: kg-CO₂



★脱炭素営業訪問
★脱炭素納品
を開始しています

脱炭素(scope1,2)達成までの流れ

節電、エコドライブを進める

電気製品をエコなものに切り替える(LED照明、エアコン)

ハイブリッド車に切り替える

ソーラーの設置

ガスの廃止(オール電化)

再生可能エネルギー由来のエコ電力70%に切り替え

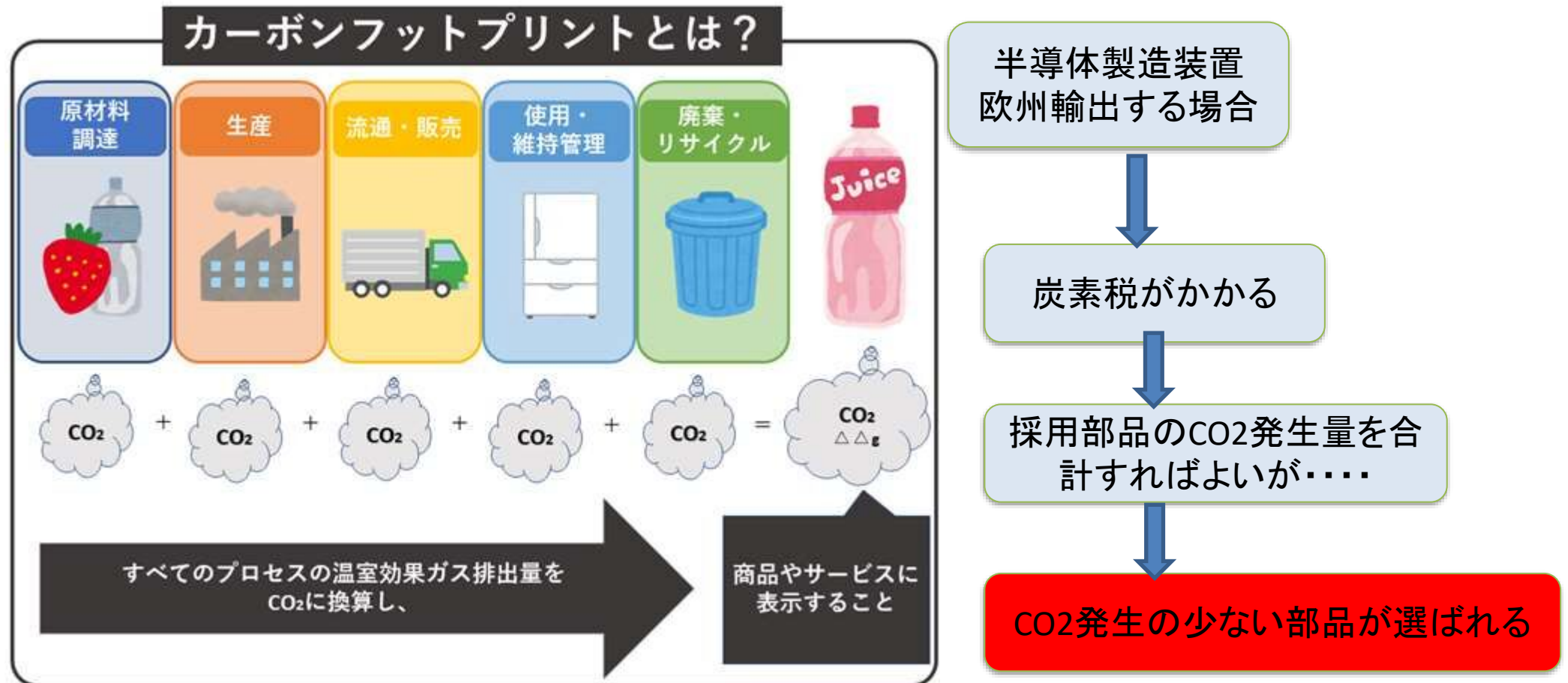
上記100%に切り替え(かながわRE100認証取得) 車両以外の脱炭素が完了

EVに切り替えてガソリン、軽油の仕様がゼロとなった。

カーボンニュートラル達成



Scope3の時代を先取りする カーボンフットプリントへの早期対応



守りから攻めへ

QCDの価値基準からQCD+E(エコロジー)の価値基準へ

脱炭素の価値の理解がある企業同士が先に繋がっていく

(関心の低い客先、仕入先など取り残されていくところが出る)

脱炭素中小企業のネットワークでさらに強く (SDGs17-17)

販売の武器としての活用

求人としての活用

参考資料 横浜市脱炭素ガイドライン実践編

https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/machizukuri-kankyo/ondanka/etc/guideline.files/0055_20240329.pdf



事例4 太平電機株式会社

エコアクション21のPDCAサイクルを継続し、カーボンニュートラルを達成。

取引先から環境認証の申請要請があり、「環境経営」の取組が事業継続に必要であると判断した。

代表取締役社長（環境経営責任者）、業務部長、営業所長等をメンバーとする環境経営委員会を立ち上げ、環境経営方針を基に全従業員で取り組んでいる。

01 現状を知る ▶ 方針を定める

取引先からの環境認証取得要請に処し、これからは環境を重視しない企業は生き残れないと感じ、2005年にエコアクション21を取得、PDCAサイクルを18年間継続。認証取得に関するものの動きを把握すると、環境経営を先に行い、500社以上の取引先から脱炭素化の取組を促した。

02 CO₂削減を促進する ▶ 取組を推進させる

事業活動を円滑に行うためのCO₂削減を推進し、経理事務エコアクション21の環境経営レポートを作成、CO₂削減の実績を踏まえて、異なる業種対策・環境目標を検討、設備導入・更新では環境負荷の低い設備を採用。

03 取組を実施する ▶ 取組を推進させる

太陽光発電設備の導入、再生エネルギーの活用、消費車の電気自動車(EV)への切り替え、Web会議やWeb会議の積極的な利用によりカーボンニュートラルを達成。改善の検証や検証結果を基に取組を行うなどPDCAサイクルを実践・継続しエコアクション21を継続。

脱炭素化に取り組んだことで—
企業ブランド価値が向上し、取引や採用に好影響

- 他社より早く取り組んだことから、先進事例として取り上げられるなど、社外に広く認知されている。
- 熱心な取り組みとつながりやすくなったことで、優良企業でカーボンニュートラルを目指している。
- SDGs・脱炭素化の取組は、顧客への訴求ポイントとなり、採用につながっている。

太平電機株式会社

取組がもたらした成果

- エコアクション21の運用を2005年から18年間継続しており、PDCAサイクルが定着していること。
- SDGsと絡めた多様な観点から脱炭素化の取組を検討していること。
- 毎週の朝礼で、代表取締役社長から全従業員に環境方針、目標、計画、実績を共有していること。
- 従業員が輪番で現場に貼るスピーチを行うなど、従業員一人一人が環境問題を自分事として考えていることができていること。

エコアクション21 環境経営レポート

社屋屋上に設置した太陽光パネル(積算発電量)

PE100電力で充電中の電気自動車(EV)

狙ったこと/大変だったこと

- 脱炭素化の取組に対し、代表取締役社長はじめ、従業員全員のモチベーションを維持すること。
- 商用ワゴン車の電気自動車(EV)導入が進んだため、化石燃料(ガソリン、軽油)使用量ゼロを実現するまでに時間がかかったこと。
- 通常業務を行いながら、環境関連法規等を常に追い続けて理解し、取組に反映すること。

事業者からの一言

今後の課題

任入先と協力して、カーボンフットプリントの算定・削減を目指したいと考えています。カーボンニュートラルは達成できたため、これからは「マイナス」を目指します。カーボンニュートラルを推進した企業同士がより事業を繁栄したいと考えています。自社だけでなく他社や異なる業種との協力ができるのではないかとワクワクしています。また、地域多様性の創出への事業展開も進めています。

これから取り組む事業者へのアドバイス

脱炭素への取組は「目に見えない」自社の負の資産の削減」とも言えます。事業の一環として脱炭素化に取り組むことが重要と考えています。高効率設備への更新や太陽光発電設備の導入により、導入費用はその後の運用で回収できますので、早めの実施をお勧めします。

専門家からの一言

代表取締役社長の現場に関する感覚の高さが従業員の日々の仕事にも影響を与え、業績に反映した事業展開が当たり前の経験者になっていきます。エコアクション21の環境経営システムを余すことなく活用し、事業を運営しています。

ご清聴ありがとうございました。 太平電機 樋口

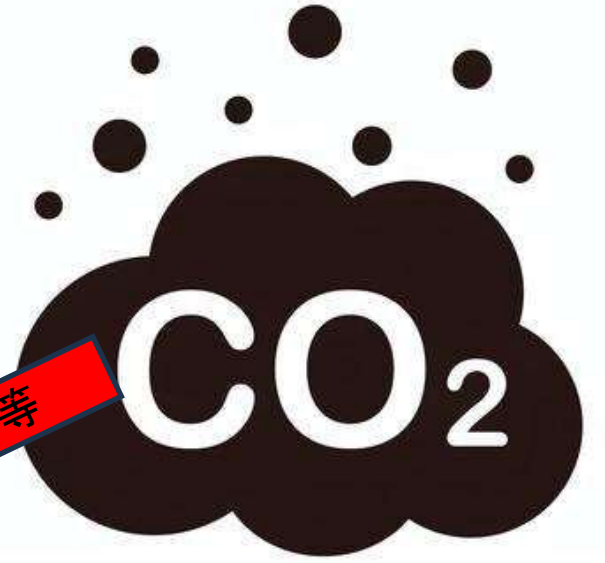
生物多様性 4つの脅威



開発等



温暖化等



外来種等



里山の崩壊等



今後の脱炭素の展開 キイノクス®



給電スポット普及
プロジェクトメンバー



国産材利用+植林プロジェクトメンバー

脱炭素製造による
部品調達販売



脱炭素ケーブル加工の普及